

## 火の魂カンパニーで働く皆さんいつも本当にありがとう。

2月になりコロナも落ち着き始め、新たな社会の動きを感じています。新入社員も力をつけ、毎年年輪のごとく企業として成長を実感します。「企業は人なり」という言葉があるように働く人以上に企業は成長しません。私は過去(2011年-2015年)に社員の成長以上に新店や新事業を立ち上げた時があります。その時は「企業は人なり」という言葉を知りながらも、自分勝手な経営判断でお客様や働く人たちに負担をかけました。その時の失敗を今は学びに変え、店舗責任者を一人ひとり育成し、地域のお客様に愛される店作りをしていきたいと思えます。改めて2月もどうぞよろしくお願ひします。

さて今月の社長からの手紙は、「陰ながら支えてくれる人」について書いてみたいと思う。先日、2月13日に全社員を集め火の魂アワードを開催させて頂きました。

年に2回の表彰式であり、社員たちを褒め称える場でもあります。今回の開催で第19回になり、過去に19回も継続して行ってきましたが、数年前(5~6年前)は感動の涙など無縁なイベントだったと思えます。私は仕事を通して感動の涙が流せるような、会社にしたくと創業から、ずっと願ひ続けて理想を追い求めてきました。ですが一向に仕事で感動するような会社には近づけない時期もありましたが、先日行われた火の魂アワードでは、新店長の昇格時に会場の過半数が涙を流すという感動的なイベントでした。

年末年始とコロナ続出の中で、社員同士が支え合い、励まし合い乗り越えてきている者だから流せる感動の涙があるし、私は仕事で涙を流し会える仲間がいることは社会人として幸せの一つだと思えます。自分のために泣いてくれる人いて、それが職場の中でのいるということは、仕事=感動であり「仕事のやりがい」、だと私は考えます。

私が涙をするときに、一緒に泣いてくれる社員がいること、私が泣きたいときに、「泣いていいですよ」気にかけてくれる社員がいることも、本当にありがたいことです。

※とは言え、社員に心配される社長としては、頼りない部分があるのかもしれませんが。懇親会では、社員同士の結婚に対する相談をされたり、酔っ払いながら「社長ー！」と笑顔で、いつもありがとうございます！と声をかけてくれたりと、社員の成長を乗り越えた顔を見るのは「本当に社長冥利に尽きる」この言葉が相応しい一日だった。

ですが、こんなイベントを裏方で準備をしてくれた人のことを、私は社員に知ってもらいたいし、伝えなければいけないと思う。あの楽しかったお酒も、あの流した涙も、みんなでお腹を抱えて笑ったことも、全て準備をしてくれた、総務たちの「社員たちの笑顔を作る」という願ひの元に成り立っていました。総務の金子、山越、黒須の存在、事前に買い出しに行き、会場の打合せをして、イベントの台本や細かい事務作業を直前まで行い、「みんなが喜んでくれたらいいですね！」と、陰ながら支えてくれた人がいて、あの日の会場の涙があったことなのです。総務のみんな、縁の下の力持ちとして、いつも裏方で社員が活躍できる環境を整えてくれて、「本当にありがとうございます」、心から感謝しています。